

初のオンライン開催!

大学祭レポート

2020

オンラインを活用して開催した今年の大学祭。4キャンパスの大学祭実行委員長の座談会とともに配信の様子をレポートします。

白山祭	INIAD-FES
朝華祭	雷祭

1 先行きの見えない中で不安もあった今年の大学祭

白山祭実行委員長 佐藤さん まずは、大学祭が本当に開催できるかどうか。それを実行委員全員が不安に思っていたことだと思います。私たちは例年通り対面形式での開催ができることを信じて、今できることをやろうという思いで大学の決定を待っていました。

INIAD-FES実行委員長 松岡さん 私は新型コロナウイルスの影響が日々拡大している状況で、従来の対面開催には、正直不安がありました。来ていただいたお客さまを安全にお迎えできる

のか、万が一クラスターが発生したら…と心配をしていました。

朝華祭実行委員長 松島さん どのようなかたちで開催するか決まっていなかったのが、まずは対面で開催した場合のコロナ対策を私たちも考えていました。

雷祭実行委員長 安田さん まずは例年通り企業の方と打ち合わせを重ねながら綿密に準備を進めていましたね。また、例年と異なる形式での開催となった場合に速やかに対応できるよう、連絡を密にしていました。

佐藤さん 準備を進めていく一方で、だんだんと対面開催が難しい状況になっていきました。どうやって白山祭を開催すればよいのか、そもそも開催できるのか…。先が見通せない状況にやはり不安は大きくなりました。

松島さん 対面での開催ができないと決定したときには、今年はまだ大学祭自体を開催することができないんだと思っています。

2 オンラインでも開催できることがうれしかった

松岡さん オンラインで開催することが決まった時は、来場者が感染したら…という不安から解放され、少し安堵したのを覚



キッズ企画でスノードームとプラネタリウム作り挑戦(白山祭)

えています。そしてすぐに、オンラインでの大学祭を絶対に成功させるぞ!と強い気持ちも芽生えましたね。

安田さん 例年の準備に加えてコロナ対策まで必要になり、焦っていた部分もあったので少し安心しました。しかし、前例のないオンラインでの開催に正直不安の方が大きかったです。

松島さん オンラインで開催できると決まった時は、対面できないことに少し複雑な気持ちはありました。しかし、時間が経つにつれてコロナ禍でも大学祭を開催できることに、ほっとした気持ちになっていきました。

佐藤さん どんなかたちであれ大学祭を開催できることは、とてもうれしかったですね。先輩たちが繋いできた伝統を自分たちも繋げていけることになり、とてもほっとしました。決定してから開催までの時間の少なさには不安や焦りなどももちろんありましたが、それよりもうれしい気持ちが強かったです。

3 開催に向けて準備も“オンライン”を進める

松島さん オンラインでの開催が決まったとはいえ、企画立案や準備のために実行委員たちが対面で打ち合わせすることもできない状況には変わりません。

佐藤さん なかなか集まることができない状況だったので、担当ごとにZoomやLINEなどのツールを用いて準備を進めていきました。授業をオンライン形式で受けていたこともあり、リモートで話すことに慣れていたことは助かりました。

松岡さん INIAD-FESの実行委員会は昨年 Slack や Google Meet といったコミュニケーションツールをすでに使っていたので、その中の情報共有はスムーズでした。しかし、実行委員会には新たに今年入学した1年生も入っていました。1年生はただでさえ実行委員がどんなことをするのか経験していないうえに、オンライン開催になったことでさらに不安だったと思います。なので、できる限り周りでサポートしようと、オンラインで面談を実施したり、アンケートを配布したりしました。一人ひとりに合った仕事や悩みごとを確認したうえで、役割分担



プログラミングサークル「INIAD Developers」による配信風景 (INIAD-FES)

を再編することが必要でした。

松島さん たしかに、1年生は先輩たちとなかなかコミュニケーションをとる機会を作りにくい状況だったと思います。Zoomを使って自己紹介をしたり…なんとかコミュニケーションをとれるように工夫しました。

佐藤さん LINEのように文面だけでやりとりしていると解釈が人によって違ったり、伝わりにくい部分もあります。1つのことを決定するまでに時間がかかってしまうこともあって、Zoomを活用してなるべくお互いの顔を見て口頭で伝えることができる機会を増やしながら準備を進めていきましたね。

安田さん オンライン開催へ変更になったことの相談や、対面開催だった場合にレンタルする予定だった用具のキャンセルなど、外部の方々がたくさんやりとりが必要でした。対面で集まることができなくても、その都度進捗や会話の内容を実行委員メンバーで共有し、誰がどの仕事をどの程度こなしているのか、組織全体で把握することにも注力しました。

Hakusan Campus

第56回 白山祭

2020年10月31日・11月1日

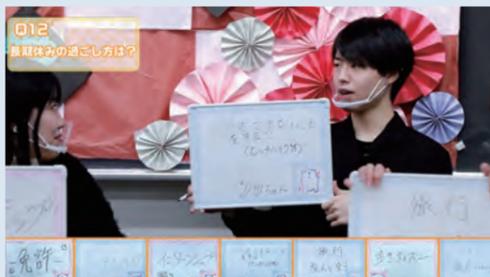


白山祭実行委員長
法学部 法律学科 3年
佐藤 広大さん

今年の白山祭のテーマは、「雅〜伝える和 繋がる輪〜」。東京オリンピック・パラリンピックに合わせ、増える外国人観光客も意識し白山祭を通して日本の良さを伝えていくという想いを込めました。新型コロナウイルスの影響で本来とは違いかたちになりましたが、こんな世の中だからこそ、オンラインを通して伝統を繋いでいけるように工夫しました。一番の見どころは「白山祭注目企画TOYO LIFE」。白山周辺のお店紹介や在学生による座談会など、学生目線の情報をお届けし、白山キャンパスを身近に感じてもらえたと思います。



チアリーディングチームMINNIESによるオープニング



東洋大学生の本音が聞ける「TOYO LIFE」のフリートーク

Akabanedai Campus

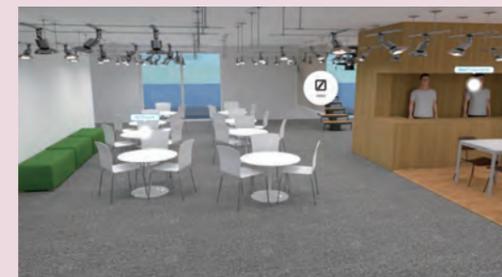
第4回 INIAD-FES

2020年10月31日・11月1日



INIAD-FES実行委員長
情報連携学部 情報連携学科 2年
松岡 励さん

オンラインでの開催が決まり、今回のINIAD-FESのテーマを「Not stay home but stay world.」に改めました。オンラインだからこそそのアクセスの良さに焦点を当て、「家から世界に繋がることができる」という意味を込めています。Webサイトにヴァーチャルキャンパスを作り上げたことは、情報連携学部で学ぶ私たちならではのですね。動画の配信をするだけでなく、仮想空間の中で来場された方々が自由に動き回って体験できる企画によって、実際に赤羽台キャンパスに来たことがなくてもここがどんな場所か知っていただくことができたと思います。



実際の場所や建物を忠実に再現したヴァーチャルキャンパス



ラジオ配信企画での情報連携学部 坂村健学部長による講演

4 前例のない挑戦だからこそ、新しい発想を

松島さん オンライン上でどんな企画をすれば皆さんに楽しんでもらえるのか、アイデアを考えるのは正直難しかったですね。

佐藤さん みんな同じ問題を抱えていたと思いますが、そもそも昨年までの大学祭の企画は、人と人が対面していることを前提として作られています。そのため、どの企画も一から考え直す必要がありました。

松岡さん 赤羽台キャンパスの情報連携学部はもともとコンピュータに深く関わりがある学部なので、オンラインで開催すること自体に抵抗はあまり感じませんでした。しかし、企画を考えるのは難しかったですね。オンラインで会議をしているとはいえ、やはり対面でのコミュニケーションとは異なる点も多く、アイデアは生まれにくかったです。また、オンライン上における法律やルールなども考える必要があり、断念しなければならないような企画もありました。

安田さん 企画の骨格がまとまってからも、そこからさらに詰めていくのはなかなか苦戦しました。開催までの限られた時間の中で、できるだけ連絡の手間を省くためにLINEのノート機能などをうまく活用していろいろな意見や質問をまとめるようにしたり…。大学祭の日が近づいてからは、キャンパスツアー動画の撮影や編集にとりかかりました。小さな教室では滞在時間を少なくし、屋外でも十分に距離をとるなど、可能な限り密な状況避ける配慮をしながら行いました。

松島さん 配信用の映像を制作するにあたって、実行委員の中には映像に写りたくないというメンバーもいました。全員が参加できるうえにカメラに写らないで済む企画などを考える必要があり、“映像を撮影して公開する”という手法の難しさも感じましたね。そして新たに生まれた企画が、頭上から定点カメラで撮影をする『巨大ドミノ倒し』でした。

佐藤さん 毎年白山祭で行っている『福引企画』では、抽選器を用いてその場で抽選を行っているのですが、今回オンラインへ落とし込むためにお客さんにもZoomを使用して参加いた



朝霞市のキャラクターとコラボ「ぼぼたんが○○踊ってみた」(朝華祭)

たり、キッズ企画では、子ども向けのYouTube動画の制作を行いました。すべてが初めてのことで不十分な部分もありましたが、ゼロベースの企画ができる楽しさもあったと思います。

5 ついに、初めてのオンライン大学祭当日

松島さん 朝華祭はすべて、事前に撮影・編集を済ませた企画を当日に配信する形式だったので、当日は私も配信された動画とサイトを確認していました。

安田さん 私は制作したサイトの運営や不具合などの対応をしていました。当日はアクシデントが発生することもありましたが、無事に解消して全日程を終えることができました。

松岡さん INIAD-FESの企画にはキャンパスから学生が生配信する企画も含まれていたため、当日はそういった企画が円滑に進むよう配信やサーバーの管理などを大学で行っていました。また、コロナ対策として大学に入る人たちが事前に申請した人であるか、各エリアで密な状況が生まれていないか確認していましたね。

佐藤さん 私もライブ配信に出演したり、外部ゲストの方の

お出迎えをしたり、配信室やスタジオなどを巡回していました。また初めてのオンライン開催で緊張しているみんなを控え室で激励していました。

6 無事に終わり一安心。そして来年に向けて…

松島さん そもそも今年は大学祭が開催できるのかさえわからなかった中で、オンライン形式とはいえ無事に開催することができて、とにかく安心しています。例年とはすべてが異なり、手探りの中で進行していましたが、大きなアクシデントも起きずに最後までやり切れたので良かったと思います。

佐藤さん 白山祭を締めくくるフィナーレ企画では、毎年最後に三役(実行委員長・副委員長・議長)挨拶があるのですが、その時にみんなで力を合わせて今回の白山祭を作り上げられたこと、無事に終わることができたことなど、さまざまな人への感謝の気持ちが込み上げてきました。

松岡さん ここまで頑張ってくれた実行委員会のスタッフたちに感謝の気持ちを抱きましたね。INIAD-FES当日は、オンライン上でしか顔を合わせたことのないメンバー同士が話し合ったり、協力して作業をしていたりと、みんながとても楽しそうに見えました。やはり“対面で会う”ということはとても大切なだと改めて実感しました。

安田さん 例年にないオンラインでの開催ということで何もかもが手探りの中、さまざまなことを検討しながら雷祭を開催できたことはとても貴重な経験になったと思います。オンライン開催だったからこそ、動画制作や配信に関するスキルなども身についたと思います。

佐藤さん しかし、初めての試みにはやはり反省点も生まれましたね。イレギュラーな事態が起こった際の対応を練り切れていなかったり、もし実際に起きていたら大変だった…ということもいくつかありました。

松岡さん 振り返ってみると、オンライン上でのやりとりだけではメンバー全員に仕事がうまく割り振れなかった時期があっ

たり、企画の配信がスマホの画面からでは少し見づらかったことなど課題もあります。

安田さん 私は連絡を密にとることを徹底していくべきだと実感しました。そうすることで、一人ひとりが仕事を抱え込みすぎないように改善できると思います。

佐藤さん 課題もまだまだありますが、それでも今回たくさんの方々に「オンライン大学祭よかったよ！すごい！」とお言葉をいただきました。来年度の大学祭がどのような形式で開催されるかはまだわかりませんが、課題や改善点を後輩たちにしっかり伝えていきます。

松岡さん 来年は朝霞キャンパスの学生が赤羽台に移転するので、お互いの長所を活かした大学祭を作り上げられたらうれしいです。コロナの状況がどうなっているかはわかりませんが、対面でもオンラインでも来場者に安心して来ていただける大学祭の新しいかたちを模索していきたいと考えています。

安田さん オンライン開催の大学祭は初めての試みでしたが「思いのほかクオリティが高くて驚いた」と言われたことはうれしかったですね。「来年度はもっとクオリティが高くなることを期待する」という声もあったので、後輩たちにも頑張ってもらいたいです。



実行委員メンバーで集まって行った打ち合わせ風景(雷祭)

Asaka Campus 第16回 朝華祭

2020年10月31日



朝華祭実行委員長
ライフデザイン学部 健康スポーツ学科 3年
松島 薫さん

キャンパス移転を目前に控え、朝華祭は今年が最後の開催となりました。これまでお世話になった朝霞キャンパスと周辺地域への感謝の意味を込めて「足跡」をテーマとしました。大教室をステージにした企画配信のほかに、移転先となる赤羽台キャンパスのINIAD-FES実行委員のメンバーたちとコラボレーションをしたりと、オンラインをうまく活用した企画の実現ができたと思います。ラストは、朝華祭実行委員総出で丸一日かけて制作した縦4.5m×横4.5mの巨大ドミノ倒しで感謝の想いを表し、朝華祭の歴史に幕を閉じました。



赤羽台キャンパスとコラボしたリモート企画



早押しクイズバトル!

Itakura Campus 第24回 雷祭

2020年10月31日・11月1日



雷祭実行委員長
生命科学部 応用生物学科 3年
安田 昂平さん

雷祭は地域密着型というキャンパスの特徴を活かし、板倉町や近隣の企業と密接に連携した企画を毎年開催してきました。しかし今年はオンラインでの開催となり、例年通りの運営・企画が難しくなりました。そこで、オンライン上での開催に向けて特設Webページを作成。なかなか大学に来ることができていない新1年生やオープンキャンパスなどが中止になった高校生に向けて、キャンパス内やサークル、研究室の紹介動画を通して、まるで板倉キャンパスを訪れたような体験ができる企画を進めました。



生命科学部と食環境科学部が学ぶ自慢のキャンパスツアー



フィールド動物科学研究室の日々の活動を紹介